



〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416
TEL 5550-7043
FAX 5550-7070
E-mail: chapel@luke.ac.jp
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



聖書を読む会

リモート (Zoom) で行っています。

第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)

第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)

ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

信徒の代表者としての
エリザベス女王

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

感染予防のため休止になる場合があります。

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル
感染予防対策のため予約制で行います

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

巻頭メッセージ

信徒の代表者としてのエリザベス女王

司祭 シモン・ペテロ 上田憲明

この原稿に何を書くかを考えている時に、英国エリザベス女王の訃報が流れてきた。多くの人たちに愛され、慕われてきたエリザベス女王の逝去の報に、寂しい思いを抱く人も多いのではないかと思う。一方、七十年の間、ずっと女王として活躍された」という思いの方もおられるかもしれない。英国国教会の中で、王の地位というのはいろいろと議論された歴史があるのだが、教会の立場から見れば、信徒の代表者ということなのではないかと思われる。

十年ごとに、世界の聖公会主教が英国に集まって開かれるはずのランベス会議がコロナ禍などの関係でずっと延期になっていたのだが、今年八月になつてようやく開かれた。その折に、エリザベス女王が集まった主教たちへのメッセージが届けられたという。その中に、エリザベス女王が信徒代表として教会に期待していることが込められているような思いがしたので一部をご紹介します。

「……第一次世界大戦の後、一九二〇年に、世界の聖公会主教たちは、この変わり続ける世界の中で、キリスト者が一致して働くことを目指し、道を歩み始めました。その課

題は、多分に今日において、より重要なものとなっています。共に将来を見つめながら、現代の様々な求めに応じていく教会の役割を模索しながら。……世界の中で、苦悩している人たちや衝撃的な出来事に出会った人たちを覚え、そういう人たちに仕えようとしてきた教会の中の様々な立場の人たちがおられたことを、何度もこの会議を通じて知ったこと、神さまの助けを借りながら教会がそのようにしてきたことを知ることとは私にとっても慰めになりました。また多くの人々や共同体が危機に陥ろうとしている、気候変動の影響が大きなものとなっている今日、環境の問題にも取り組んでくださろうとしていることを興味深く思っています。……キリストのメッセージや教えは私の生涯の指針ともなり、その中に希望を見つけてきました。教会の皆さまも試練の時に信仰によつて支えられ、絶望的な時こそ、希望によつて励まされるようにと心からお祈りしています。……」

長い年月の間、女王であったからこそその思いも込めながら、信徒の代表者としてこのメッセージを託されたのではないだろうか。